

栗原の稲作通信

第4号 令和7年7月3日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント○

1. 目標茎数確保後の中干しとその後の水管理を適切に行いましょう。
2. 品種や生育量に合わせた追肥を行いましょう。
3. 斑点米カメムシ類の本田への侵入を防ぐため、水田畦畔の草刈りは出穂10日前までに終わらせましょう【令和7年度の草刈り自粛期間：7/24(木)～8/22(金)】。

1. 気象経過

○6月は、最高・最低気温ともに平年と比較して高く、降水量は少なく推移し、日照時間は平年を上回りました。

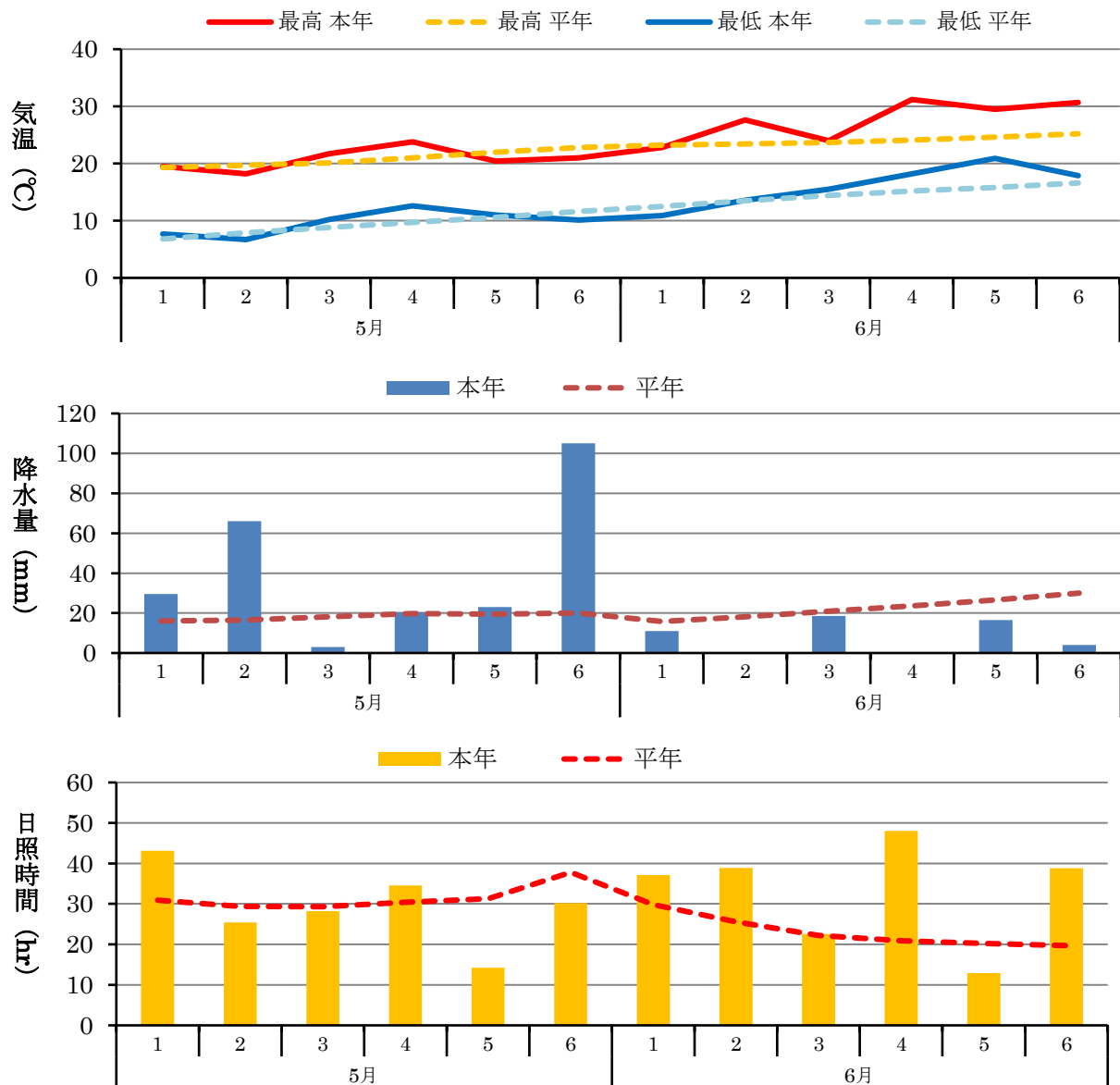


図1 5、6月の気象経過（築館アメダス）

2. 生育状況（7月1日現在）

1) 移植水稻

○県内における「ひとめぼれ」の生育状況（県内 18 地点平均）は、草丈は 58.1cm（平年比 110%）、茎数は 480 本（平年比 93%）、葉色（GM 値）は 40.1（平年差-2.4）となっており、平年と比べて**草丈は大きく、茎数は少なく、葉色は淡くなっています**（表 1「ひとめぼれ 県平均」）。

○管内の「ひとめぼれ」は、若柳では平年と比べて、草丈は大きく、茎数は少なく、葉数は並み、葉色は淡くなっています。（表 1「ひとめぼれ 若柳」）。また、一迫では平年と比べて、草丈は大きく、茎数は少なく、葉数は少なく、葉色は淡くなっています（表 1「ひとめぼれ 一迫」）。

表 1 7月1日 生育調査結果（移植水稻）

品種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年比(%)	平年比(%)	本年	前年差(枚)	平年差(枚)	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	若柳	5/19	2日早	1日早	58.5	99	111	497	101	72	10.0	-0.1	0.2	37.0	-7.3	-7.6
ひとめぼれ	一迫	5/13	3日遅	2日遅	56.8	117	116	327	82	75	8.8	-1.0	-1.3	37.2	1.3	-4.1
ひとめぼれ	県平均	-	-	-	58.1	104	110	480	94	93	9.8	-0.6	-0.2	40.1	-1.3	-2.4
ひとめぼれ	古試	5/9	同日	同日	59.1	107	115	596	87	93	9.8	0.0	0.2	40.7	0.1	0.5
ひとめぼれ	古試	5/20	同日	同日	56.6	113	119	620	108	99	9.3	0.1	0.0	41.7	1.0	1.0
つや姫	築館	5/28	5日遅	6日遅	54.6	108	115	354	93	88	9.9	0.5	0.5	39.0	-5.0	-7.1
つや姫	古試	5/9	同日	同日	61.2	116	122	585	91	95	9.8	0.1	0.4	43.3	0.9	1.0
にじのきらめき	若柳	5/21	-	-	54.7	-	-	394	-	-	10.2	-	-	41.0	-	-

注 1：平年値は過去 5 年間（令和 2～6 年）の平均値。

注 2：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における 18 地点の生育調査結果の平均。

2) 乾田直播水稻

○令和 5 年の乾田直播ひとめぼれに比べて、草丈はやや大きく、茎数は少なく、葉数は多く、葉色は淡くなっています。

表 2 7月1日 生育調査結果（直播水稻）

播種様式	品種	地区	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉数(枚)		葉色(GM値)	
乾田直播 グレーンドリル 播種	ひとめぼれ	志波姫	本年	R5年差	本年	R5年比(%)	本年	R5年比(%)	本年	R5年差	本年	R5年差
			3/27	17日早	44.6	107	194	41	9.0	+1.7	30.5	-4.8

注 1：令和 7 年から品種を「ひとめぼれ」に変更。

注 2：R 5 年比は令和 5 年産の「ひとめぼれ」との参考比較。

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 適期の中干しとその後の水管理について

- 必要茎数を確保したら中干しを実施します（必要茎数については「くりはらの稲作通信（第3号）」を参照）。
- 中干しは、土の表面に軽くひびが入る程度を目安に行い、中干しの期間は7～10日間とし、遅くとも幼穂形成期（昨年の生育調査ほひとめぼれで7月第2半旬頃）の前には終了します。
- 必要茎数が確保されていないほ場では、中干しを行わず、浅水管理などにより、分げつを促して、必要茎数確保に努めましょう。
- 中干し直後は走り水程度として、徐々に湛水状態に戻しましょう。その後は出穂期まで間断かん水または飽水管理を基本とします。
- 幼穂形成期（幼穂長1～2mm）から減数分裂期（幼穂長3～12cm）にかけて、最低気温が17℃以下の日が続く場合は深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

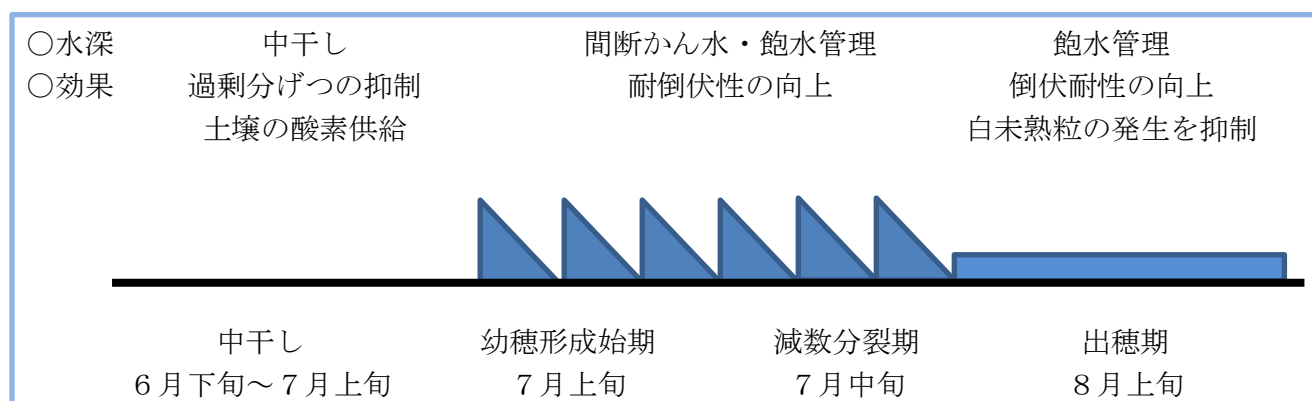


図2 今後の水管理体系

2) 品種や生育量に合わせた追肥について

近年は出穂後の高温により、白未熟米が発生し、品質低下することが多くなりました。追肥により、幼穂形成期以降の稲体の栄養状態を良好にし、デンプン合成や光合成の活性を維持することで、白未熟米の発生を抑制し、収量および品質の安定化が期待されます。追肥の施用時期によって効果や影響が異なるので注意が必要です（表3）。

表3 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い、○：効果あり、×：悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

- 葉色が淡くなっているほ場や生育量が不足しているほ場では追肥を行いましょう（表4）。
- 幼穂長、生育量を把握して、品種毎に適期に適量の追肥を行いましょう（表4）。
- 有機入り肥料を追肥で使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので、早めに施用する。

表4 追肥時期の生育量と追肥量の目安 *生育量の範囲内から下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長 1 ～ 2 mm）			減数分裂期（幼穂長 3 ～ 12 cm）		
	茎数 (本/㎡)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	茎数 (本/㎡)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470～530	38～40	1kg	450～500	35～37	1kg
ササニシキ	720～760	34～36	(しない)	550～580	32～34	1～1.5kg
つや姫	550～580	35～37	2kg	-	-	(しない)

4. 病害虫防除

病害虫防除所 発生予報第5号 (宮城県病害虫防除所 7/2 発行)

～紋枯病、斑点米カメムシ類の発生に注意、草刈りを出穂10日前までに終わめしょう～

▶葉いもち……発生量「平年並」

発生時期（発生開始期）「7月第3半旬（7/11～7/15）平年並」の予報

○ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除めしょう。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。

○特に、萌えみのり、金のいぶきなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意めします。

▶紋枯病……発生量「やや多」

○前年に紋枯病が多発したほ場では、穂揃期に茎葉散布剤を散布めしょう。

○高温多湿で発生めやすく、前年多発したほ場では、注意が必要です。

▶斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）……発生量「やや多」

発生時期（発生開始期）「7月第3半旬（7/11～7/15）やや早」の予報

○畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前めには終わめせめしょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追め込むことになるので避けめしょう。

○今年度の栗原市の水稻の出穂前後の草刈り自粛期間は「7月24日（木）から8月22日（金）まで」（栗原市水稻カメムシ被害抑制対策本部）

○斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底めしょう。

.....

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守めしょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認めことができます。

■農作業中の熱中症に注意めしょう!!

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてめきます。熱中症死亡事故の約85%が7～8月に発生めしています。熱中症は正しい知識を身に付けることで、適切に予防めすることが可能です。

.....